県政報告
ひでしの
「実績で勝負」㉖

# 8つの新提言　実現に向け邁進します

公明党　鈴木 ひでし

「まかせて安心、いのち守る鈴木ひでし」をモットーに活動しております。先ごろ、平成29年第3回定例会で一般質問に立ち、黒岩祐治県知事らに対し、保健福祉や防災、教育分野など、新たな実績となる全8項目において、提言を含めた質問を行いました。今回は残りの4項目をご報告いたします。

**モットーは「まかせて安心！いのち守る！鈴木ひでし」。**

第109代神奈川県議会副議長、県監査委員、公明党県議団団長などを歴任。現在、厚生常任委員会に所属

HP http://www.hideshi-suzuki.com/

## 動物愛護施策を推進へ

依然として減らない神奈川県動物保護センター（平塚市）に収容される犬や猫のため、二つ提案しました。一つは、すべての犬・猫に、条例によるマイクロチップ（MC）の装着の義務化を、飼い主への助成制度創設とあわせて検討すること、もう一つは「飼い主手帳」の発行など、飼い主の自覚を促す取組です。

黒岩知事は提案に対し、MCの有用性に共感した上、助成制度創設とMC装着を推進する取組、飼い主の責任感向上のための手帳やカードの発行の検討を明言。また、建替えを進める同センターについては、私が提案した財源確保のためのネーミングライツの活用を検討するとしました。

## 湘南に自転車観光ルートを

自転車は優れた観光手段として、各地で活用され始めています。湘南海岸沿い、国道134号線の鎌倉から大磯までの区間の歩道は自転車が通行でき、富士山を眺めながら走ることのできる有効な観光資源です。そこで、すでにレンタサイクル事業を進める地元市町や民間事業者を巻き込みながら、広域利用の仕組みづくりを進めるべきと訴えました。

知事は全国に広がる「自転車シェアリング事業」を例に挙げ、県が地元市町や観光協会に呼びかけ、「湘南地域／自転車観光／推進協議会」（仮称）を設立した上、実現の可能性を探ると前向きな姿勢を示しました。

## 子ども合衆国を全県へ

子どもたちが、イベントなどを通し、労働による賃金の授受や納税を体験できる取組「キッズタウン」。県は今年度、田園調布学園大学（川崎市）と協働で、この取組の全県展開を目ざす「かながわ子ども合衆国事業」を推進しています。子どもたちにとって貴重な体験となる素晴らしい事業ですが、県だけが進めても広がりがないと感じ、「県庁公開の際、県内市町村の教育委員会なども巻き込んだキックオフイベントを開催し、事業のPRをしてはどうか」と提言しました。

知事は現状で広がりが弱いことを認めた上、各教育委員会や民間団体、企業の協力が必要と答弁。来年度、県庁版キッズタウンを開催すると約束しました。

## 障がい者スポーツ発展を

健常者のものと比べ、障がい者スポーツは参加も観戦も少ないのが実情です。もっと障がい者スポーツを普及・発展させていくために必要なのは、中心的な団体の設立、そして、競技者の拡大です。県は昨年度から、パラ五輪競技の体験会「パラスポーツトライアル」を開始しましたが、この継続に加え、県内の障がい者スポーツの中心となる団体設立がやはり必要です。

先の定例会でその思いを訴えると、知事は、「障がいごと、競技ごとに必ずしもまとまっていない」「全国には障がい団体が連携している例もある」とした上、2020年東京五輪を契機に、中心団体設立も重要な検討課題とする旨をお答えいただきました。